

湘南慶育病院

廣瀬 卓哉(リハビリテーション部 作業療法士 入職4年目)

功 績 廣瀬は2022年 6月15日に発刊された学術誌「作業療法」において、2編の学術論文が同時に掲載された(論文題目①:回復期の脳卒中上肢機能訓練における信念対立の質的解明、②:視覚入力による固有感覚の仮想的脳内反復付与は脳梗塞後の運動失調に影響するか?)。研究活動と学術論文の掲載を通じて、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献した功績。

推 薦 者 久保 雅昭(リハビリテーション部 部長)

推 薦 理 由 当院リハ部の廣瀬卓哉(作業療法士)が、日頃の臨床実践での研究疑問を大切にし、大学教員や上司の指導を受けながら、国内の作業療法のなかで権威のある学術誌「作業療法」において、2編同時に掲載となりました。当院での実践が、学術的な知見として貢献したこと、また、当院の知名度向上にもつながった事は理事長賞に値するとし推薦いたします。

内 容

当院リハビリテーション部の廣瀬卓哉(作業療法士9年目)が日本の作業療法で最も権威のある雑誌である「作業療法 41巻3号」において、2つの学術論文が同時に掲載されました。

【論文題目】

- ①回復期の脳卒中上肢機能訓練における信念対立の質的解明
- ②視覚入力による固有感覚の仮想的脳内反復付与は脳梗塞後の運動失調に影響するか?

①は、回復期の脳卒中上肢機能訓練における信念対立の構造を明らかにした新規性の高い研究であり、かつ、回復期リハビリテーションにおける根拠に基づいた医療やその教育において有用な知見が提出されたことから掲載となりました。

この研究は、廣瀬が吉備国際大学大学院 保健科学研究科の京極真 教授と寺岡睦 講師とともに共同で研究を行ったものです。

②は、当院のリハビリテーションの先端機器であるKiNvisを使用し、従来ではリハビリテーションの方法論が不足していた上肢の運動失調をもつ症例の物品操作能力の改善や、生活場面上の問題の改善を認め、上肢の運動失調に対する治療法として、今後もKINVISの効果を検証していく価値があるものと考えられたことから掲載となりました。

この研究は、廣瀬が湘南慶育病院 作業療法科長の丸山と東京都立大学 健康福祉学部の金子文成 准教授とともに共同で研究を行ったものです。